

大阪府教育委員会 令和3年度研究報告書

研究成果（概要）

- 大阪府の子どもに共通する課題である、読解力等の言語能力・情報活用能力の育成に向け、規模や取組みが異なる3市において研究を行い、効果・検証を進めた。
- ・リーディングスキルテストから見取った課題から、リーディングスキルの観点を生かした授業づくりについて研究が進んだ。
 - ・子どもの意欲を引き出す必要性を意識した言語活動を取り入れた授業づくりに向けた教員の意識改革及び授業改善が進んだ。
 - ・一人一台端末を意図的・効果的活用した言語能力を育む授業づくりに向けて、校内体制を整え、授業改善に向けた研究が進んだ。
 - ・府としては、研究成果を府域全体の課題解決に向けた授業改善への指導・助言に生かすことができた。

1. 研究課題と調査・取組内容

（1）具体的な研究課題

大阪府の子どもたちに共通する学力課題として、基礎的・基本的な言葉等の知識・理解や書かれたことを理解し、論理的に自分の考えを書くことなど言語能力の課題が上げられる。大阪府では、これらの課題解決として、平成29年度は学力やコミュニケーション力の基礎となる「ことばの力」を身に付けるため、小学校の低・中・高学年段階で言葉を使ってできるようになってほしい基礎的な内容を教材「ことばのちから～できるかなリスト～」としてまとめた。あわせて授業などで系統的に学習できるよう活用シートを作成し、府内の学校で活用を進めてきた。また、「スクール・エンパワーメント推進事業」を実施し、府内各市町村に学力向上の旗艦校を指定して当該学校及び市町村の学力課題克服の取組みを進めるとともに、府教材を積極的に活用し、言語能力を育成する授業改善を推進した。その成果として事業実施校では、全国学力・学習状況調査の記述問題の正答率が向上するとともに、学習状況調査において、授業に関する子どもたちの意識の向上につながってきた。また、令和元年度からは同事業において「学校図書館を充実・活用するためのモデル小学校」を新たに指定し、学校図書館の機能を有効活用した授業改善の研究も進めている。モデル校では、子どもたちが図書資料を使って調べる力を計画的に育成し、調べたことから必要な情報を選び、まとめ、交流しながら深めていく言語活動を充実させる授業を行っている。令和2年度からは、さらに中学校にも拡充して取組みを進め、好事例をまとめ、広く普及しているところである。加えて、言語能力育成の基盤となる国語の授業づくりとともに、他教科等における言語活動を充実させ、学力向上につなげる「国語の授業づくりモデル小学校」を指定し、取組みを進めている。

また、令和3年度からは、子どもたち一人ひとりが学びの基盤となる読解力などの言語能力・情報活用能力等を向上させ、予測困難な社会を生き抜く力を着実につけることを目的とした大阪府独自のテストである「小学生すくすくウォッチ」の取組みを始めた。具体的には、5年生で国語・算数・理科に加えて、教科横断型の問題とアンケート、6年生で教科横断型の問題とアンケートを実施。国語では、文章に書かれている意味を正確に捉える力（リーディングスキル）をはかる問題を中心に実施。また、教科横断型の問題では、文章やグラフ等

の様々な資料を題材に、問題をつかみ、資料を読み取り、思考して、自分の考えを表現する力を問うた。これらにより読解力等の言語能力の育成を府全体として図り始めた。

このような取組みを通じ、府全体として言語能力の育成に取り組もうとしているが、府内の市町村や各学校は、地域の特性や学校規模の違い、貧困などさまざまな生活背景のある子どもたちが通っており、各地域において学力課題、生活の状況は様々である。より一人ひとりの課題・地域の状況に正対し焦点化された取組みが必要である。そのため、言語能力等資質・能力の育成にむけたさまざまなアプローチを行い、その成果を普及することで、各市町村が状況に応じた取組みを進めるよう考えた。

そこで、市町村の規模や取組みの違い3市を設定し、言語能力等資質・能力の育成のための取組みの効果検証を進め、普及・発信する。

- ・（茨木市）所管学校数の多い地域として、読解力の課題を明らかにするため、リーディングスキルテストを実施し、リーディングスキルを意識した授業改善について調査研究する。
- ・（摂津市）所管学校数が中程度の地域として、基礎的な読解力、情報を正しく読み取る力を身に付けるため、リーディングスキルテスト等から見取った課題を学習指導要領の指導事項と紐づけた授業改善を調査研究する。
- ・（枚方市）令和元年度より1人1台端末を導入し、ICT活用に先進的に取り組んでいる事業実施校において、あらゆる学習場面において意図的・計画的なICT機器の活用により、言語能力や情報活用能力の育成について調査研究する。

（2）研究課題に基づいて実施した調査・取組内容

【府の取組み】

「大阪府学力向上推進協議会」を設置し、第1回学力向上推進協議会（以下、推進協議会という）では、国の連絡協議会における指摘事項もふまえた改善点を共有するとともに、各研究委託市での取組みを情報共有した。また、協議会アドバイザーの学識者よりさらに指導助言を受けるとともに、今後の取組みの方向性について協議を行った。検証結果を生かした授業改善の具体的な方策をもとに、再委託市ではそれぞれの事業実施校の課題に応じた取組みを進めていった。

また、大阪府の子どもたちに共通する読解力等の言語能力・情報活用能力の課題の現状について、5月に実施した府独自の「小学生すくすくウォッチ」の結果から見取りを行った。教科や教科横断的な問題の結果分析から、1つの資料から読み取ることについては成果が見られたものの、資料に示された数値等を関連付けて読み取り内容を捉えることや、複数の文章（会話文）から読み取ったことを関連付けて、適切にイメージして図に示すことなど、論理的に読み取ることに課題が見られた。これらの課題については府域全体で共有するとともに、具体の解決方法の一つとして、論理的に考え、整理するための方法等を具体的に示した「シンキングツール」などの指導資料を作成し、各学校に提供した。

第2回協議会では、11月・12月に行った事業実施校訪問での状況を中心に、取組みの進捗および成果と課題について協議を行い、学習指導要領に基づき、言語活動を通して指導する授業改善を実施するなど、取組みの方向性について確認を行った。

第3回協議会では、再委託3市より令和3年度の取組みのまとめを報告するとともに、国の報告会における企画評価会議委員による指導助言事項をふまえ、協議を行なった。また、次年度の計画に向けた協議会アドバイザーによる指導助言を受け、子どもたちが学ぶ必然性を実感できる授業づくりとともに、子どもの変容をとらえながら、日々の実践を改善していくことなど、2年目計画の方向性を共有した。

以下、再委託した3市の取組みについて記載する。

【茨木市の取組み】

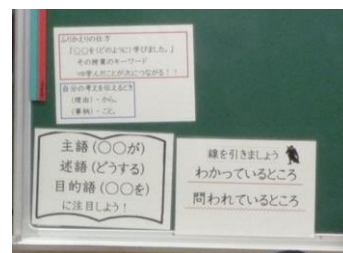
読解力の課題を明らかにするため、リーディングスキルテストを実施し、リーディングスキルを意識した授業改善や取組みを実践した。

○取組み内容①リーディングスキルタイム（常学習：玉櫛小学校）

週1回のリーディングスキルタイムで、リーディングスキルテストにより把握した課題である『係り受け解析』、『照応解決』、『同義文判定』に関するプリントに取り組んだ。教員がすべての教科等において、言葉の意味を確認しながら、より丁寧な説明を行った。

○取組み内容②主語・述語等を授業で意識し、語彙を増やす取組み（山手台小学校）

- ・子どもたちが書いた振り返りの文章であいまいな表現や意味が伝わらないことがないように、丁寧に指導した。
- ・各教室に主語・述語等を常に意識できるようにステッカーを掲示（右図参照）
- ・「ことばの宝石箱」として、発達段階（低・中・高）に応じて獲得してほしい語彙を表にし、各教室に掲示して語彙指導で活用した。
- ・視写：1分間で丁寧に早く書く練習を行う。
学年ごとに目標字数を設定し、ことばを文節で捉える練習を行った。



○取組み内容③全教科でのリーディングスキルを意識した授業

（東奈良小学校の実践から）

- ・読解力とは何かを子どもと教員で共通理解を図り、「文章を単に理解するだけではなく、その内容を理解し自分で考えて生活に活用できる能力が『読解力』といえる」と伝え、子どもに考えさせながら授業に取り組んだ。
- ・日々の授業の中においても、次のような言葉がけを意識し指導を実践した。

ペア学習、グループ学習において

→T「ペア（グループ）の人は何て言ってた？」→T「言ってること合ってる？」

→C「はい、合ってます」C「だいたい合ってるけど少し違ってしています。それは・・・」

（同義文判定）

授業のはじめにおいて

→T「前回の授業で学んだことは何ですか？」→C「〇〇について学びました」

→T「具体的にどういったことでしたか？」→C「□□ということが言われていました」

（具体例同定）

めあての提示において

→T「このめあてをふまえて、今日はどんなことを学ぶと思いますか」

→C「△△についてわかればよいと思います」（推論）

（玉櫛小学校の実践から）

- ・図工のプリントに工夫した点を書く欄をつくり、「工夫」という言葉の意味を書くことで、言葉の理解を促しながら、説明させた。（具体例同定）
- ・すべての教科で言い換えを意識して授業を実施した。例えば、算数の問題では、教員が言い方を変えて出題することで、より注意して問題を見たり、問題を解くヒントに変わった

りすることなどにより、言葉の理解を深める結果になった。(同義文判定)

→例：4200は100を何個集めたもの？⇔100を何個集めたら4200になる？

(山手台小学校、東奈良小学校の実践から)

- ・6年国語(単元名：『町の幸福論』 説明文)において、文章中の指示語を探してから、その指示語が何を指しているか、確認した(照応解決)。

→文章構成図を考える(序論・本論・結論の構成の理解)
→文章構成図を基に、要旨を捉える活動
→プレゼンテーションに必要な図やデータを選ぶ。
※インプットする場面でリーディングスキルを意識する(イメージ同定、具体例同定)
→データがプレゼンテーションに合っているかどうか、再確認、プレゼンテーションの練習
※アウトプット場面でもリーディングスキルを意識する
(イメージ同定、係り受け、照応解決、具体例同定)
→班で発表(班員全員で発表)→リーディングスキルを基盤とし、教科の思考力・判断力・表現力につなげた

○取組み④低学年における多層指導モデルMIMの取組み(モデル校3校)

- ・アセスメント(テスト)を学期末に行い、課題のある児童を把握→個別指導や全体指導で支援した。
- ・各学期に1回MIM連絡会を開催し、担当者同士で取組みの交流、教育センターの巡回相談員より指導・助言(MIM教材の検討・開発も)を行った。

【摂津市の取組み】

摂津市学力定着度調査やリーディングスキルテスト等の見取りから、読む力の中でも特に、「必要な情報を見つけ出す力」と「どこに着目して読めばよいか判断できる能力」に課題が見られた。

子どもたちの読む力を向上させるためには、日常の授業の中で、子どもたちが読み進めたいと思える授業づくりが必要であることから、学習指導要領の指導事項に基づき、身につけたい力を明確にし、目的に沿った言語活動の必然性がある授業づくりを意識して行うよう、以下6つのステップを大切にして取組みを進めた。

ステップ1：『学習指導要領』から単元の『指導事項』の重点をとらえる。

第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
イ 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。	イ 登場人物の行動や気持ちなどについて、 叙述を基に 捉えること。	イ 登場人物の相互関係や心情などについて、 描写を基に 捉えること。

ステップ2：指導書を生かして、系統をつかみ、単元の目標をより具体的にとらえる。

- ・何を学習してきたのか。
- ・新たに何を学習するのか。
- ・次の学習にどうつながるのか。



本単元のゴールイメージをより明確にする。

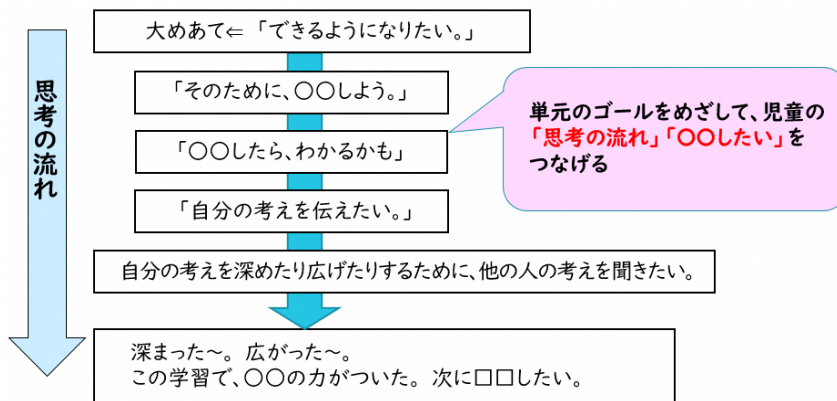
ステップ3：児童にとって「魅力ある言語活動」を設定する。

【ポイント】

- ・単元の目標（思考力・判断力・表現力）に迫るための活動になっているか。
- ・児童の実態に合っているか。
- ・児童の「〇〇したい」を引き出す活動か。
 - …興味・関心に合っているか。 取り組む目的、必要性はあるか。
 - 他教科等へ視野を広げ、関連付けることで効果が高まるか。

ステップ4：学習後にめざす児童の姿（ゴール）を明らかにする。（＝評価規準の具体化）

ステップ5：児童の思考の流れに沿って単元を組み立てる。



ステップ6：めざす児童の姿を意識し、ゴールに迫るための授業展開

⇒「摂津小スタンダード」を作成（以下、イメージ）

The image shows a document titled 「摂津小スタンダード」 (Tetsu Elementary School Standards) with the subtitle 「～70人力でつくる、摂津小の子もたちのための授業づくり～」 (Created by ~70 people, for the lessons of Tetsu Elementary School children). The document is divided into sections:

- めあて（「出合う」）** (Goal/Meeting): 「児童のこんな姿をめざして…」 (Aiming for children's such posture...). It lists goals like being interested in the subject and having specific goals. A callout says 「やってみよう！」「できるようにになりたい！」 (Let's try it! / I want to be able to do it!).
- 手立て** (Implementation): 「前フリ！～導入（出合う場）の工夫～」 (Pre-lesson! ~Introduction (Meeting place) improvements). It lists using materials and starting with previous learning. A callout says 「意欲を引き出す大事なポイント！」 (Important point to stimulate motivation!).
- めあての内容や立て方の工夫** (Improvements in goal content and setting): 「わかりやすい言葉で…」 (Using easy-to-understand words...). It lists making goals specific and using children's own words. A callout says 「児童の『〇〇したい』が高まったタイミングで提示！」 (Present when children's 'I want to do ○○' has increased!).

 To the right is a separate box titled 「見通し（「結びつける」）」 (Forecasting (Connecting)). It explains the purpose of forecasting and lists implementation steps: 「児童のこんな姿をめざして…」 (Aiming for children's such posture...), 「めあて」 (Goal), 「見通し」 (Forecasting), and 「手立て」 (Implementation). It lists steps like using materials to connect learning and sharing forecasts.

具体的な授業内容として、教科書だけではなく、より多くの本や図鑑に触れる機会を授業に取り入れ、それらを言語化して他者へ伝える取組み、学習している内容と関連させて並行読書を行う取組み、言語活動の必然性を生み出す学習課題の設定で子どもたちの意欲を最大限に引き出す取組みなど、授業改善に取り組んだ。

【枚方市の取組み】

1人1台端末の環境下で授業や家庭学習などあらゆる学習場面において効果的にタブレット等を意図的・計画的に活用することで、生徒が自ら情報を取得し、自ら考えまとめ、受け手の状況などをふまえた発信・伝達力を高める。それにより、生徒一人ひとりの読解力などの言語能力や情報活用能力の育成を図り、予測困難な未来を生きる子どもたちに必要な課題発見能力・課題解決能力を育成することをめざし、取組みを進めた。

（研究テーマシートの作成）

年度当初の生徒の課題としては、全ての教科に共通して「アウトプット」する活動（発表や話し合い）や、協働的に課題に取り組む活動（対話的な学び）を中心に課題があることが分かった。

その内容をもとに、全9教科及び支援学級の教科会等において、当該校の研究テーマをもとに教科ごとの研究テーマを策定し、全教科で「研究テーマシート」を作成した。（図1）

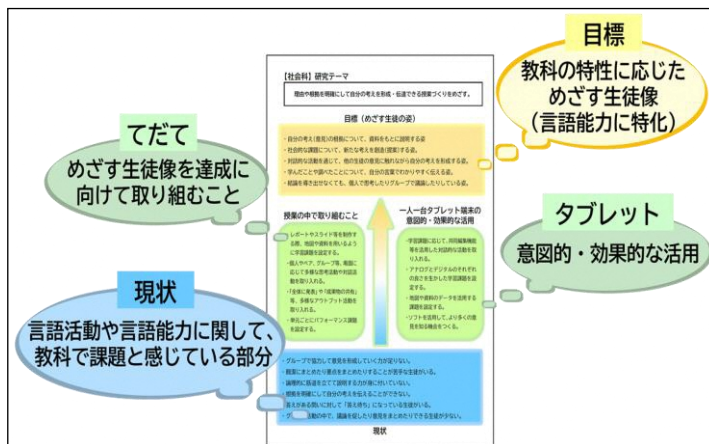


図1 研究テーマシートの項目

「研究テーマシート」は、言語能力に特化した教科の特性に応じためざす生徒像を設定し、めざす生徒像の実現のために、言語活動や言語能力に関して、教科で生徒たちの課題と感じている部分をまとめ、意図的・効果的なタブレットの活用を意識した、めざす生徒像達成に向けて取り組むてだてを記載することとした。そして、そのテーマに基づいて、日々の授業に生かすこととした。

（教科等横断的な取組みとなるためのしかけづくり）

時間割内に教科会を設定し、授業づくりに特化した話し合いを週1回のペースで行った。

さらに、教科部会と学力向上委員会が連携したTPT（タブレット・プロジェクト・チーム）委員会を組織し、「教科の壁」を越えて、ICTを効果的に活用した授業づくりについて協議する場を設けた。（図2）

TPT委員会では、校長、教頭、ICT活用部は固定の委員、各教科1名、支援学級担任1名は輪番制として組織し、「四中ICT活用モデル」に基づく授業実践レポート（図3）を用いた交流・協議を進めている。

教科を横断した交流・協議とすることで、例えば社会科の教員が紹介した授業前日のネットニュースを教材にする方法を国語科で応用して授業に取り入れるなど、各教科での授業の工夫が他教科でも生かされ、授業改善につながっている。併せて、ICTを用いた振り返り活動を大切に、授業で気づいたことや要点などを授業支援ソフトに入力して教員に提出し、クラス全体に共有している。自分のふりかえりが共有されることで、他者に分かりやすい表現を

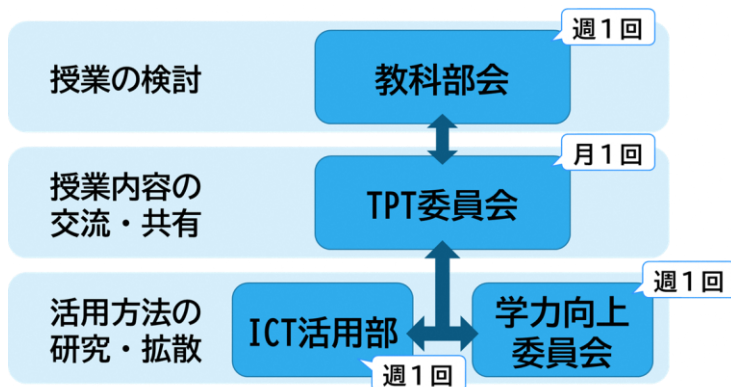


図2 研究推進のための組織体制

心がけたり、項目を立てたり重要な個所を強調したりするなど、表現力の成長につながっている。

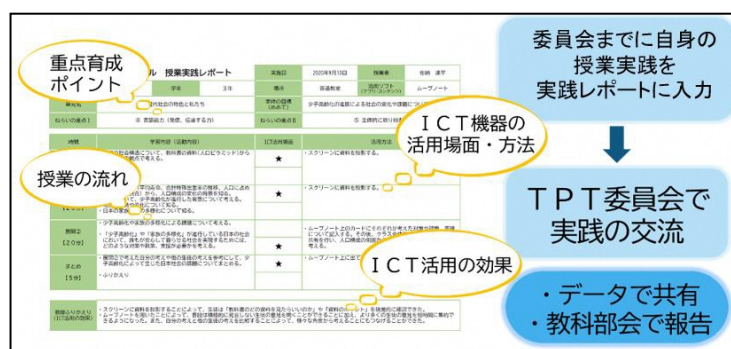


図3 授業実践レポート

また、以下4点を目的とし、授業力の向上をめざした「授業参観交流プロジェクト (JSKP)」を一か月間実施した。(図4)

- ①「各教科で設定した研究テーマの浸透」
- ②「各教員が生徒の現状をふまえた実践を進める」
- ③「教科等横断的にさまざまな視点を取り入れる」
- ④「他の教員の授業を参観することで、新たな発見をし、自身の授業のブラッシュアップをはかる」

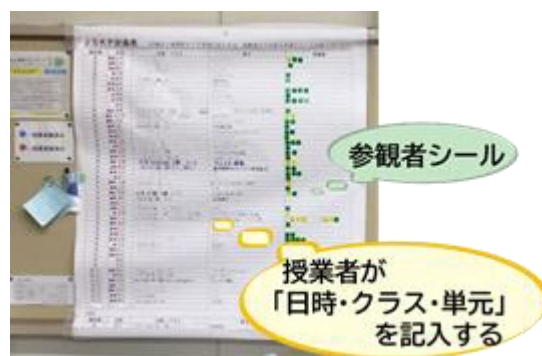


図4 JSKP 計画表

授業者が公開する授業を設定、職員室内の掲示板に掲示している「JSKP 計画表」に記入し、参観する教員は、「JSKP 計画表」を見て、参観したいと思う授業の参観者欄にシールを貼り、情報共有しながら、全教員が授業実施、参観を各1回以上行った。

授業者は、「JSKP 参観シート」をあらかじめ作成(図5)することとし、各教科の目標や教科ごとの特徴的な活動だけを評価項目とするのではなく、「一番力を入れているポイント」を明記することで、参観の視点を明確化し、事後の指導助言を効果的に進めた。

また、ICTの本質的な活用法を探るため、様々な教科を参観し、「教員が授業のねらいをしっかりと持ってICTを活用しなければ、生徒は単にICTを楽しく使うだけで、学習効果が限定的になる」ということを共有した上で、授業の本質を学び合うように取組みを進め、紙とICTのそれぞれのよさを生かして言語能力の育成に向けた授業改善に取り組んだ。

JSKP 参観シート		授業者 (佐納達平)	参観者 (例)
○ 研究テーマ	自分の吹き出し 教科主任が編集	授業日 (10月18日(月)1限)	授業クラス (1年6組)
○ 授業のポイント (参観者に特に見てほしいポイント)	理由や根拠を明確にして自分の考えを形成・伝達できる授業づくりをめざす。		
○ 授業の中で取り組むこと	レポートやスライド等を作成する際、地図や資料を用いるように学習課題を設定する。		
○ 一人一台タブレット端末の効果的な活用	学習課題に応じて、共有機能や他者へ送信した対話的な活動を取り入れる。		
○ 四者メソッドの観点 (授業に関するもの)	授業の課題設定と振り返りの徹底 (目標を明確に示す・自分の言葉でまとめやふりかえりの活動を行う)		

図5 JSKP 参観シートの作成例

2. 効果検証内容・結果

【府の取組み】

(1) 効果検証のための指標

No.	検証のための指標	実施主体	具体的な検証内容
1	小学生すくすくウォッチの正答率	大阪府教育委員会	読解力を測るテストを行う 読解力等の活用の力について検証する

(2) 指標に関するデータの取得方法（時期、回数等）

	検証のための指標	データ取得の時期、回数等
1	小学生すくすくウォッチの正答率	令和3年度5月に1回、令和4年度4月に1回

(3) 検証の際に比較の対象とする学校等

取組実施校	比較対象校	比較対象とする理由
再委託市 事業実施小学校（4校）	大阪府平均	取組みを実施しているところとそれ以外を比較検証するため

令和3年度すくすくウォッチ（5・6年生対象）では、論理的に読み取る力（読解力）に関わる現状として、教科横断型の問題において問う力の5つの観点の中で「A：図や表、グラフ、短い文章、会話文等に示された内容を関連付けて、正しくとらえる」に関する正答率が48.1%（府全体）と低く、課題がみられた。また、同じ観点の問題においても、「短い文から読み取る問題」⇒「表から読み取る問題」⇒「会話文から条件に応じた内容を読み取る問題」と段階的に正答率が低くなった。授業改善の視点の一つとして共有し、課題解決を図るとともに、令和4年度実施分との検証の際に、事業実施校での取組みの効果を比較検証する予定。

【茨木市】

(1) 効果検証のための指標

No.	検証のための指標	実施主体	具体的な検証内容
1	グローイングチェックの正答率	茨木市教育委員会	読み取りを重視した評価問題
2	アンケート調査の結果	茨木市教育委員会	読解力についての意識調査
3	全国学力・学習状況調査の国語『読むこと』の平均正答率	文部科学省	国語の読み取りを重視した問題

(2) 指標に関するデータの取得方法（時期、回数等）

	検証のための指標	データ取得の時期、回数等
1	グローイングチェックの正答率	令和3年度各学期1回、令和4年度各学期1回
2	アンケート調査の結果	令和3年度に各学期1回ずつ、令和4年度に各学期1回ずつ
3	全国学力・学習状況調査の国語『読むこと』の平均正答率	令和3年度5月、令和4年度4月

(3) 検証の際に比較の対象とする学校等

取組実施校	比較対象校	比較対象とした理由
茨木市立玉櫛小学校 茨木市立山手台小学校 茨木市立東奈良小学校	茨木市立茨木小学校 茨木市立畑田小学校 茨木市立西小学校	取組実施校と規模がほぼ同じで、取組みを実施している学校と実施していない学校を比較するため。
計 3校	計 3校	

※今年度の状況については、別紙1参照

【摂津市】

(1) 効果検証のための指標

No.	検証のための指標	実施主体	具体的な検証内容
1	東京書籍の標準学力調査の正答率	東京書籍	資質・能力のうち特に「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力等」の状況を検証する。
2	児童へのアンケート調査の結果	摂津市教育委員会	資質・能力のうち特に「学びに向かう力、人間性等」の状況を検証する。
3	保護者へのアンケート調査の結果	摂津市教育委員会	資質・能力のうち特に「学びに向かう力、人間性等」の状況を検証する。

(2) 指標に関するデータの取得方法（時期、回数等）

	検証のための指標	データ取得の時期、回数等
1	東京書籍の標準学力調査の正答率	令和3年12月及び令和4年12月の2回、取組実施校及び比較対象校の児童に対して学力検査を実施する。
2	東京書籍の標準学力調査の正答率	令和3年7月、12月、令和4年3月及び令和4年7月、12月の5回、取組実施校及び比較対象校の児童に対してアンケートを実施する。
3	児童へのアンケート調査の結果	令和3年7月、12月、令和4年3月及び令和4年7月、12月の5回、取組実施校及び比較対象校の児童の保護者に対してアンケートを実施する。

(3) 検証の際に比較の対象とする学校等

取組実施校	比較対象校	比較対象とした理由
摂津市立摂津小学校	摂津市立三宅柳田小学校	同一市内にあり学校規模や学力の状況が類似しているため。
計 1校	計 1校	

※今年度の状況については、別紙1参照

【枚方市】

(1) 効果検証のための指標

No.	検証のための指標	実施主体	具体的な検証内容
1	中学生チャレンジテストの記述式回答の正答率	大阪府教育庁	資質・能力のうち特に「思考・判断・表現等」における記述式回答に対する生徒状況を検証する。
2	保護者へのアンケート調査	枚方市教育委員会	資質・能力のうち特に「学びに向かう力、人間性等」の状況を検証する。
3	生徒へのアンケート調査	枚方市教育委員会	資質・能力のうち特に「学びに向かう力、人間性等」「思考力・判断力・表現力」の状況を検証する。
4	学校独自の生徒へのアンケート調査	学校	タブレットの活用の有効性、及び情報モラルの向上について検証する。

(2) 指標に関するデータの取得方法（時期、回数等）

	検証のための指標	データ取得の時期、回数等
1	中学生チャレンジテストの記述式回答の正答率	第3学年：令和3年9月 第1・2学年：令和4年1月 ⇒引き続き、令和4年度、第2・3学年のチャレンジテストで比較
2	保護者へのアンケート調査	令和3年7月・令和4年2月にそれぞれ、取組実施校及び比較対象校の保護者にアンケート調査を実施。
3	生徒へのアンケート調査	令和3年7月・12月・令和4年2月・令和4年7月・令和4年12月にそれぞれ、取組実施校及び比較対象校の生徒にアンケート調査を実施。
4	学校独自の生徒へのアンケート調査	令和3年の7月・11月・2月、令和4年の7月・11月・2月の指数を基に、経年比較を行う。

(3) 検証の際に比較の対象とする学校等

取組実施校	比較対象校	比較対象とした理由
枚方市立第四中学校	市内18中学校	全中学校にタブレット端末が導入されたため
計 1校	計 18校	

※今年度の状況については、別紙1参照

3. 考察（本研究が学力向上のために有効な取組であると言えるか）

府域共通の課題としての子どもたち一人ひとりが学びの基盤となる読解力などの言語能力・情報活用能力等を向上させるため3市で取り組んできた。

茨木市では、高学年ではリーディングスキルテストから見られた課題からリーディングスキルを意識した授業づくりについて、低学年では多層指導モデルMIMを活用した児童の見取りとアセスメントについて研究を進めた。リーディングスキルを意識した授業改善を進めることで、例えば、食品ロスについてのプレゼンテーション資料の中で、「1年間で1人当たり51kgの食品ロスが生まれている」という情報から、市の人口を掛け合わせて市全体の食品ロスを算出するなど、既存のデータから独自データを算出するなど、読み取る力の向上による児童の成長が見られた。また、学習語彙の獲得をめざした取り組みを進めることで、子どもたちが言葉を意識した表現を行うようになってきた。

摂津市では、目的や必然性を持った言語活動の場面を設ける授業改善が進んだ。例えば、自分の意見に対しての反論を想定し、相手を納得させられるような意見を考えるという目的を持った話し合い活動で、活発な意見交換が見られた。また、教員が模範となる話し合い活動を演じた動画を児童に示すなど、教員の指導にも工夫が見られている。

枚方市では、子どもたちの現状の課題から各教科の特性に合わせて「各教科のめざす生徒の姿」を設定した。「各教科のめざす生徒の姿」に向けて、教科の授業でどのような言語活動を進めて行くか、ICTをどのように活用するのかについて検討を進めて実践した。これらの取り組みにより、生徒アンケートの「タブレットを活用しながら意見の交流や発表をしている」という項目では、昨年の6月から11月にかけて強い肯定が約20%向上した。また、「タブレットを活用すると他の人の意見が分かりやすい」という項目が約13%向上した。

このように、府の子どもたちに共通する課題をふまえ、再委託市においてそれぞれの事業実施校が課題解決のための特色のある調査・研究を進めており、それぞれの取り組みに応じた成果が見られ始めていることから、学力向上に有効な取り組みにつながると考えている。

4. 課題と今後の研究の方向

今年度は府の子どもたちに共通する課題をふまえたうえで、再委託市において、それぞれの事業実施校の課題解決に向けた取り組みを進め、取り組みの検証を行ってきた。再委託市の取り組みにそれぞれ課題があり、それをふまえ取り組みを行っていく。

茨木市は、研究を進めている学年では成果が見られているが、学校全体の系統性のある取り組みにできているかという点が課題と捉えている。今後、低学年でのMIMの活用と高学年でのリーディングスキルテストでの見取りを生かした授業づくりが学校全体で行えるよう取り組みを進める。

摂津市は、リーディングスキルテストで見取った課題をどのように授業改善につなげるという観点で課題が見られている。今年度、研究を進めた日常の授業の中で、子どもたちが読み進めたいと思える授業づくりに絡め、リーディングスキルテストで課題が見られた項目と学習指導要領の指導事項が関連するところを見つけ、紐づけを行いながら授業改善を進める。

枚方市では、生徒同士の学びへの関わりをより深めていくために、タブレット端末を活用した学習の振り返りの「ポートフォリオ化」や、単元末の「応用課題」を意識した授業改善、言語活動場面の設定の工夫を取り組んでいく。また、対話的で深い学びの実現につなげるために枚方市のLTEタブレット端末の特長である、「いつでも」「どこでも」オンラインにアクセスできる環境を最大限活用し、授業が家庭学習へ、家庭学習が授業へとつながる授業と家庭学習のシームレスな学びの推進に取り組む。

府としては、再委託市3市における研究について、どの市町村でも取り組める汎用性のあるものとし、読解力等の言語能力・情報活用能力の向上にいかすことが課題である。そのため、次年度は、府独自の「すくすくウォッチ」における経年変化や、今年度の取り組みに係る成果を検証するとともに、3市の取り組みを府内のどの学校でも取り組める汎用性のあるものとして発信できるように取り組みの焦点化を含めた整理を学力向上推進協議会において定期的に行う。

また、再委託市において研究協議会を開催し、市内へ発信するとともに、広く府域に向けた学力向上フォーラムを開催し、府域全体への発信を行う予定にしている。

5. 今年度の研究経過

月	内容
4月	学力向上推進協議会設置
5月	文部科学省における連絡協議会 小学生すくすくウォッチ（小学校5・6年生）実施
7月	第1回学力向上推進協議会 計画及び進捗確認
9月	中学生チャレンジテスト（3年生）実施
11月	文部科学省による実地調査（茨木市立山手台小学校） 府による事業実施校訪問（茨木市立東奈良小学校・枚方市立第四中学校） 進捗確認及び学校・市教委への指導・助言
12月	府による事業実施校訪問（摂津市立摂津小学校） 進捗確認及び指導・助言 第2回学力向上推進協議会 進捗確認及び学校・市教委への指導・助言
1月	中学生チャレンジテスト（1・2年生実施）
2月	第3回学力向上推進協議会 今年度成果報告・効果検証等

6. 研究関係者

(1) 学力向上推進協議会構成メンバー

所属	氏名
京都女子大学 発達教育学部 教育学科	教授 水戸部 修治
大阪府教育庁市町村教育室小中学校課 学力向上グループ	首席指導主事 宮本 洋介
	主任指導主事 田中 守
	指導主事 奥田 祐介
茨木市教育委員会事務局 学校教育課	参事 梶西 学
	指導主事 岡田 知浩
摂津市教育委員会事務局 学校教育課	課長 河平 浩一
	指導主事 大槻 満
枚方市教育委員会事務局 学校教育室	課長 嶋田 崇
	係長 田中 大登